

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成23年3月24日(2011.3.24)

【公表番号】特表2008-536479(P2008-536479A)

【公表日】平成20年9月11日(2008.9.11)

【年通号数】公開・登録公報2008-036

【出願番号】特願2007-556197(P2007-556197)

【国際特許分類】

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

C 0 7 K 19/00 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 N 1/21 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 7/02 (2006.01)

A 6 1 P 7/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/04 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

【F I】

C 1 2 N 15/00 Z N A A

C 0 7 K 19/00

C 0 7 K 14/47

C 1 2 N 1/21

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 7/02

A 6 1 P 7/00

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/04

A 6 1 P 43/00 1 0 5

【手続補正書】

【提出日】平成23年2月1日(2011.2.1)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 6 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 6 3】

本明細書で使用する“コントートロスタチン”(CN)とは、アメリカマムシ(Agkistrodon contortrix contortrix (サザンカパーヘッド:southern copperhead))毒液から単離されたディスインテグリンをいう(Trikha, Roteら, 1994)。CNは、プロタンパク質、メタロプロテイナーゼ、およびディスインテグリンドメインをコードする1449bpのオープンリーディングフレームを含有する2027bpのマルチドメイン前駆体としてヘビ毒腺で生成される。前駆体は(おそらく自己触媒的に)タンパク分解のプロセッシングを受けて成熟CNを生ずる。完全長のCNプレタンパク質は完全長mRNA(GenBank AF212305)のヌクレオチド配列85-1536にコードされ、CNのディスインテグリンドメインはmRNAの1339-1533に相当する。65アミノ酸を含むCNディスインテグリンドメインを以下に示す(RGD配列に下線を付す)。

DAPANPCCDAATCKLTTGSOCADGLCCDQCKFMKEGTVCRRARGDD LDDYCNGISAGCPRNPFHA (SEQ ID NO: 2

)

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 1 2 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 1 2 5】

単量体ディスインテグリン、エキスタチンのC-末端アミノ酸配列に相当する配列HKGPATを、CNディスインテグリンドメイン配列のC-末端に含有させた。このコンストラクトはキメラであり、遺伝子操作によって異なる起源を持つ2つのヘビ毒液ディスインテグリン、すなわちエキスタチン（クサリヘビ科動物（viperid）ディスインテグリン）およびコントートロスタチン（マムシ亜科動物（crotalid）ディスインテグリン）の配列を併せ持つ。このため、C-末端グラフト（graft）を保有するこのディスインテグリンコンストラクトを“ピクロスタチン（Vicrostatin）”または“VN”と称する。HKGPAT配列を有さないCNディスインテグリンドメインを“rCN”または“rCNコンストラクト”と称する。ピクロスタチンのアミノ酸配列を以下に示す。

GDAPANPCCDAATCKLTTGSQCADGLCCDQCKFMKEGTVCRRARGDD LDDYCNGISAGCPRNPHKGPAT (SEQ ID N
0: 5)

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】配列表

【補正方法】変更

【補正の内容】

【配列表】

2008536479000001.app